

1. 背景と目的

2008年9月、H&Mが日本に上陸。ファストファッションブームが到来し、低価格でおしゃれな衣類を簡単に手に入れられる時代となった。一方で、一着当たりの使用頻度が低下し死蔵衣類が増加している[1]。死蔵衣類の増加は、衣類の購入量や廃棄量の増加に繋がり、資源消費や環境負荷の増加という問題を引き起こす。これに対して本稿では2つの方法を考える。

1つ目は古着屋の活用により衣類の循環を進めることである。国内の古着市場はファッション小売市場全体の4%以下(2010年度)と小さい[2]が、近年、古着利用を推進するための工夫が出てきている[3]。しかし、こうした取り組みは2Rの観点から検討されていない。

2つ目として着まわしを考える。着まわしは、しばしばファッション雑誌で取り上げられている(例えば[4])ものの、これを衣類の発生抑制の観点から検討した研究は見当たらない。しかし着まわしにより1着あたりの使用頻度が増え、購入量が減れば、問題の改善となる。

そこで本研究では、古着の国内利用を推進する上で有効と考えられる古着屋の取り組みを抽出するとともに、個人の着まわしにより衣類の発生抑制とおしゃれを両立させる手法を明らかにする。これらによって、衣類の2Rを通じた資源消費抑制・環境負荷削減の実現を目指す。

2. 研究方法

繊維製品の3R、特に古着屋の取り組みについて文献調査およびウェブサイト調査を行い、その状況を把握するとともに、古着屋の注目すべき取り組みを抽出する。

次いでファッションの書籍や雑誌より、衣類の発生抑制とおしゃれが両立する着まわしの事例を抽出し、代替するアイテムの種類と使用する季節により体系的に分類する。そして分類した事例に基づき、どのような工夫が発生抑制とおしゃれの両立に寄与しているかを考察する。

なお本研究では、ファッションの書籍や雑誌に掲載されている着こなし例は、おしゃれであるとみなした。また、例えばワンピースを、ワンピース以外として着こなしたり季節を超えて使用することにより、他のアイテムを代替したり使用頻度を上げているとみなせる場合、発生抑制になっていると考えた。

3. 古着屋による循環促進の取り組み

現在、衣類のリユース・リサイクル用途としては約3割が反毛加工後に製品化され、約2割がウエスに製品化され、約5割が古着として販売、利用されている。ただし古着のほとんどは輸出されており、国内リユースの割

合はわずかである[5]。一般に衣類は流行の影響が大きいいため、時間とともに身につけにくくなる傾向にある。そのため古着の国内利用を促進するには、死蔵衣類として眠っている時間を減らすことが必要であり、古着屋に出しやすい仕組みが必要ではないかと考えた。そこで古着屋のウェブサイトを検査し、古着取引を促進する上で注目すべき仕組みを抽出した。結果を表1に示す。

表1 古着屋独自の取り組み

業者	買い取り	古着販売
ドンドンダウン [6]	・量り買いによる全品買い取り ・毎週月・木は買い取り価格が1.5倍	・毎週水曜日に値下がり ・野菜の値札による12段階の価格設定
キングファミリー [7]	・量り買いによる全品買い取り ・シーズン外衣類可	・毎日数十〜数百の商品入れ替え
オフハウス [8]	・出張買い取り ・家具、ギフト品の買い取り可	・現金、クレジットカード、商品券、金券、US\$で買い物可

全品買い取り等の取り組みは、古着屋への排出行動の際の手間を省く為、古着屋利用を促進する有効な手段であると考えられる。毎週月、木に買い取り価格倍増を、水曜に古着販売の値下げをといった日替わりイベントを設けるドンドンダウンでは、平日の朝から行列ができるほどの盛況ぶりとなっており、年々業績を伸ばしている[3]。一方で、一般に回収した古着のうち、国内で売り物にならないものが50%~70%にのぼる[2]。こうした商品の輸出やリサイクル業者への引き渡しルートを表1の企業のようにいかに構築するかが今後の課題と考えられた。

4. 着まわしによる発生抑制とおしゃれの両立

1着のブラックドレスを365日着まわすThe Uniform Project[9]を対象として分析した。この365事例において、ブラックドレスは着こなしに合わせてその役割を変化させていた。そこでこれを①ワンピース②インナー③トップス④アウター⑤ボトムスの5つの役割と①春夏②秋冬の2つの季節という軸から10種類に大別した。そして①長袖ワンピ②Tシャツ③ブラウス④タートルネック⑤ロングベスト⑥半袖カーデ⑦ジャケット⑧コート⑨スカートの9アイテムを代替する事例について分析を行った。

その結果、①温度調節のためのインナー・アウターによるレイヤード②ブラックドレスの役割変化のためのボタン開閉やアイテム付加という工夫から、本来の気温、役割を超えた着まわしが可能となっていることが明らかとなった。このように比較的単純な操作で本来の枠を超えた着回しが可能になっているため、一般の人でも季節をこえた着まわしをやりやすい点が特徴的であった。

さらに白シャツ、カーディガン、パンツ、ボーダートップス、ニットキャミソールについてもファッションの

表2 代替アイテム別着こなし分析

ワンピース	秋冬	 <p>ブラックドレスと同じ黒色インナーで一体感をだし半袖を長袖に見せる。 長袖インナーを合わせることで防寒。 →長袖ワンピース風</p>	
トップス	春夏	 <p>ベルトのウエストマークによる上下アイテムとしての分離。 ボトムスを合わせる。 →Tシャツ風</p>	
	春夏	 <p>付け襟をつける。 ベルトのウエストマークによる上下アイテムとしての分離。 →ブラウス風</p>	
	秋冬	 <p>ネックウォーマーを合わせることで首の防寒。 ボトムスを合わせる。 →タートルネック風</p>	
アウター	通年	 <p>袖から異色のインナーを出す。 ボタンの開閉。閉める場合は下部だけにする。 →ロングベスト風</p>	
	春夏	 <p>ボタンの開閉。温度にあわせて開き加減を調節する。 完成したコーデの補助に羽織るだけ。 →半袖カーディガン風</p>	
	秋冬	 <p>開襟風に襟を開く。 ボタンの開閉。上部は開襟風にするため、閉じない。下部は温度にあわせて開き加減を調節する。 →ジャケット風</p>	
	秋冬	 <p>ボタンの開閉。襟付きコート風にする際は上部を開く。温度にあわせて開き加減を調節する。 厚手インナーを合わせることで防寒。 →コート風</p>	
スカート	通年	 <p>上からトップスを合わせることで上下の分離。 →スカート風</p>	

雑誌[4][10][11]や文献[12]から着まわし事例を調査した。

その結果、これらの事例でもボタン開閉、レイヤード、袖・裾のロールアップ等の工夫が見られた。さらにニットキャミソールの分析からは、ニット素材のキャミソールのように、型と素材に相反した季節特性を合わせることでより季節を超えた着まわしが可能になる可能性も示唆された。

5. 考察

季節を超えた着まわしは基本的には温度調節等の物理的機能による工夫だけで実現する。さらに衣服の役割・イメージ変化のためのアイテム付加等の工夫がおしゃれに寄与する。季節、TPO、着こなしイメージのそれぞれの軸において、より主張の強いアイテムを合わせることで印象をコントロールすることができる。着まわす衣類がシンプルで主張が小さいほどこの印象操作は効果を持つ。ブラックドレスの着まわしも①黒色②ワンピース型③ボタン④前後ろ着用可であったから着こなしに幅が出た。このように、シンプルな作りや黒色等、着まわししやすいアイテムを購入することで、より幅広い着まわしが進み、発生抑制効果が大きくなる可能性が考えられる。

6. 結論

宅配買い取り、量り買い、全品買い取り等の古着屋の取り組みが、平日の朝に行列を作るほどの盛況へと繋がっており、古着屋の国内利用推進に有効な取り組みとなっている。

さらに、衣類の発生抑制に向け、個人が季節、役割を超えて衣類を着まわし、他のアイテムと代替、一着の衣類の使用頻度を増やすためには、①温度調節の為のインナー・アウターによるレイヤードという物理的機能における工夫が有効である。さらに②着こなしの役割やイメージ変化の為のボタン開閉やアイテム付加という工夫を加えることにより、おしゃれさを保ちつつ衣類を発生抑制することができる。また、衣類購入の際は作りや色のシンプルなものを選ぶことから、着まわしの可能性を広げることが出来、発生抑制にもつながると考えられた。

参考文献

- [1]岩地加世「“衣”との付き合い方—これでいいの？衣類のリサイクル—」廃棄物資源循環学会誌, Vol. 21, No. 3, pp. 132-139, 2010 [2]株式会社矢野経済研究所「リユースファッションマーケット総覧2011」2011. 3. 31 [3]岡本昭史「衣類リユースの取り組み—ドンドンダウン オン ウェンズデイの事例 (特集 2R 推進への動き) 廃棄物資源循環学会誌, Vol. 22, No. 4, pp.287-291, 2011 [4] SWEET, 宝島社, 2011. 1 月号 -2012. 1 月号 [5] (独) 中小企業基盤整備機構「繊維産業に係る平成 21 年度情報提供事業 繊維リサイクルの現状調査報告書」2011 [6] DonDonDown on Wednesday, <http://www.dondondown.com/> (2012. 2. 5) [7] キングファミリー, <http://kingfamily.co.jp/> (2012. 2. 5) [8] HARD OFF, <http://www.hardoff.co.jp/> (2012. 2. 5) [9] Sheena Matheiken, 小野アムズデン道子編・訳「NY 流シーナのブラックドレスで 365 日 The Uniform Project」株式会社メディアファクトリー, 2011 年 8 月 26 日 [10] VIVI, 講談社, 2010. 12 月号 -2011. 12 月号 [11] Men's NON-NO, 集英社, 2011. 2 月号-2012. 2 月号 [12] 渡部サト「手編みのジレ はる なつ あき ふゆ 着まわし自在」(株)世界文化社, 2009